

飛耳長目

森 信 三 先 生 参 究 誌

通巻84号 平成22年11月1日発行

「修身教授録」探求（第四十九回） 「現代娘読本」

森 信 三

すでにあなたの方の中にも読んでおられる方が相当あるようであります。今大阪毎日新聞に載っている菊池寛氏の「現代娘読本」というものは、私はなかなかの出来映えであると思います。そもそもあゝ、という種類の問題は、若い婦人にとつては、ある意味で非常に大切な事柄でありながら、今日まで誰も真面目にこれを教える人のなかつたこととて、私としても大変結構な事柄であると思つて、毎日興味深く読んでいた次第です。多分完結したならばあとで書物になつて出ると思いますが、そうしたならば現在読んでいない方々も一読されるがよくなるかと思ひます。もちろん難を申せば無いこともないでしょう。たとえばあの方があれを書かれた対象は、百貨店の女店員、会社の女事務員、タイピスト辺りから、下はカフェの女給あるいはダンサー、時には料理店の仲居などまでその範囲に入れておられるようであります。そこでいまあなたの方のように教育界へ入ろうとする人、殊に未だ卒業もせず、従つて実社会へ出てもない生徒の身分にあるあなたの方には、細かい節々の点ではあるいは無くもがなとも思われ、

あるいはこの辺りはもう少し何とかならぬものかと思われる節が部分的には無いわけでもないのです。すなわちこれを一言にすれば、ただいまも申したような広範囲にわたる職業婦人を含めてこれを対象として書かれたものでありますから、職業とは言い条、全然一般的ないわゆる職業婦人とは違つた教育者、特にまだその卵であるあなたの方に対してはやや調子が低く、時として卑俗にわたる個所もな

いはいえないようであります。が然るにもかかわらず、少なくとも私一個の考えとしては、今日あゝ、という知識はあなたの方のような若い女の人、特に未婚の娘さん方にはある程度に必要であると思つるのであります。いやある意味では全然外で働かない娘さん達でも、やはり心得て居るべき節々が少なくないと思うのです。そもそも男子に対する女子としての要慎警戒ということ、ある意味では婦人として最も大切な知識と申してよいでしょう。然るにかかわらず事実においては、事柄の性質上あなたの方のような若い人々が懇切にこれらの点に関して教えられるという機会がないのであります。両親なども、我が子とはいい条、面と向かつてはつい口に出しては言いかね、また私ども教師としましては、つい教壇においては触れ難い性質の事柄

であります。然るにもかかわらず事実としては、婦人が自分の一生を生かすか葬るかという分かれ道を為す事柄でありまして、これに比べればその他の知識は、如何なるものといえども結局は枝葉末節と言つてもよいほどです。しかるに前申すように事柄の性質上、親や教師もこの最も大切な心がけについてはあまり立ち入つてつぶさには話し難いのでありまして、おそらくあなた方も親御さんからそういう問題に関しては十分な教えをいただいでおられる方は先ずなかるうかと思うのであります。

そこでこういう事柄に対する心構えというもののは、本当の親切心を以て書かれた書物があると、それによるのが最もよろしいのであります。これは多少性質の違うところがあるかもしれませんが、性教育などということも、いろいろ論議はされるようではありますが、結局は適当な書物を与え授けるということが最も適切な方法というべきであります。が、さていざ適当な書物となりますと、それがまたなかなか容易でないのであります。況や男性に対する女性としての要慎警戒の心得を、全体を見渡して適切に書いたものとしては、おそらく今日まで先ず絶無と申してよいでしょう。ここでこの「現代娘読本」はかような

意味からは先ずこれまでになかった書物と申してもよいでしょう。あの方がこういう問題を取り上げられたのは、もちろん小説家として人生の諸相を眺めておられることがその基盤になつてゐることは申すまでもないでしょうが、しかしあの方をしてかかる問題に関して執筆の決意を固めさせたのは、察するに最近あの方が新聞の女性相談欄を受け持たれたことによつて、今更のように男性に対する若い女性の無知と、またこれに対する不良男性の横暴とを黙視するに忍びないという点に基づくものであります。

そもそも女というものは、男子特に不良の男子に対しては、実に無知な弱みを持つているとも言えましょう。尤もこの無知も、その婦人が社会へ出ずにおれば、それほど大した問題も起こさずに済むとも言えましょうが、一たび社会に出て職業戦線に加わると、実に危険の真つ只中に曝されるわけであります。「現代娘読本」の中には、女子がいかに無知であるかということ、男子の見分け方を知らないという点からも述べられてあります。仮にいま一人のタイピストなり女事務員なりが、一つの会社に勤めることになつた際、女というものは最初に話しかけてくる男子に対して、好感を持つもののようにであり

ますが、真の立派な男子というものは、決して左様なはしたない事はしないものであるということが述べられてあります。私はこれはいかにも真相を穿つた話しと思うのであります。実際本当に立派な男子というものは、容易に若い婦人に向かつて馴れなれしく口をきくものではないのです。新参の若い女性に対して、最初から馴れなれしく親しげに話しかけるような男子は、やや言葉を厳しく申せば、必ずある程度の色魔性を持つと申してもよいほどです。彼にそうまでは言わないとしても、男子としては多くはつまらない男であつて、真に高潔な男子というものは、決して新参の若い婦人などにそう軽々しく口をきくなどということは決してしないのであります。

しかるに近頃の若い女の人々には、この辺りの事柄が全く分からない人が少なくないようです。そこで誰一人知る人のいない不慣れた自分を哀れんで、いちいち親切にしてください。さるあの方は、何と親切な優しい思いやり深い方か?などと思ひ違えるのであります。総じて真に高潔な品性を持ち、真に頼み甲斐ある男子というものは、若い婦人などには概してそつてなく感じられ、どこか取り付きにくい感じのするのが常であります。これに反して最初から馴れなれしく親切そうにする男子

は、やがて次に新しい婦人の現れたとき、またその婦人に近づく浮薄な移り気な男子であります。そこでいまもし直接本人たる婦人に対して結婚の意志の有無さえ確かめないで、最初から正式に仲人を立てて、結婚を申し込むような男子があるとするならば、それこそ真に男子中の男子であつて、かような男性こそ真に自己の一生を托するに足る人物といふべきであります。

かように言われてみれば、わずかに一二の実例によつてさえ成る程とうなずけるようなことでも、言われ知らされなければ、そうと分からず、つい躓く人の多いのが現在の若い婦人の実情であります。ただいまホンの一例を申しただけであります。しかしこういう種類の事柄は、ほかにも種々あろうかと思ひます。そもそも若い婦人が多くの男性の間に身を置いて、正しく純潔に身を持つということとは、必ずしも容易なことではないでしょう。実際女性としては真に命懸けの危険の中に身を曝すものと申してもよいでしょう。同時に女性の真の聡明さというものは、こういうところにこそはつきりと現れるものでありましょう。学校の成績はいかに優秀であろうとも、ないし教育界でいかに才能を發揮しようとも、この最も大切な点において躓き、或

いはつまずかないまでも種々世評に上るようでは、女としては最も愚かなるもの、最も無知な者と申さねばなりません。その意味からはこの菊池氏の「現代娘読本」のごとき書物も、またあなた方を婦人としての聡明さに導く一つの手引き書であるとも思われるのであります。実を申せば、私自身あなた方のような将来女教師として世に立つ人々に対して、こういう方面の事柄について適切な話をするのができれば、実際それに越したことは無いのであります。前にも申したように、事柄の性質上あまり立ち入ったことは教壇の上からは申しにくい点もあり、また第一私自身そういう点については十分な知識がないのであります。それでたまたまこういう書物の出ましたのを幸い、これによつてこの方面に対する私の講義の不備を補つていただきたいと思ふ次第です。あなた方はもう子供ではないのですから、自分さえシヤンとしておれば、女事務員とか更には女給ダンサーという人々の生活の一端を知るといふことも、将来教師として、また妻として母として世に立つ上、必ずしも無用のことではないでしょう。

(猪岡静枝記)

「修身教授録」第四巻同志同行社昭和15年刊・天王寺女子師範における講義から

森信三先生の短文紹介

微言

宗教と敗戦「開頭」20号から

森 信三

○窓に枠のあるようにあらゆる宗教には型がある。

○窓を通してのみ空を眺めていた者が一度屋外へ出てみたとき初めて大空には如何なる枠もないことが分る。

○窓に枠の必要なようにあらゆる宗教に型のあることは必ずしも悪いことではない。唯それに囚われることが悪いのである。

○しかし宗教の型に囚われぬということの如何に至難であることか。今日までの人類の歴史がこれを実証して余りがある。しかるに人類には今やこの至難なる問題を解決すべき時期が近づきつつある。

○来たるべき真の宗教革命とはこれを平たくいえば一度皆屋外へ出て大空の無際限なることを見よということである。

○今日では卓れた型をもっている宗教の方が却つてこれを脱却することが困難だとも言える。

このことは一人宗教に限らずあらゆる事柄について言いうるが、特に宗教の場合において著しい。

○「新生」は必ずしも日本のみに課せられた問題ではない。否、全世界全人類が今やいのちの根本的再生を迫られつつある。

○人類が今日ほど深い苦悶と懊惱おうれうに陥ったことは嘗てない。人類は今やその宿業を果さしめられる「前夜」にある。

○もし原子爆弾によつて局が結ばれるでなかったら今回の敗戦ほど悲惨な敗戦は世界史上全く類例がないであらう。

○日本が原子爆弾によつて手を挙げたということは一見最も悲惨なるが如くに見えつつ実は最も幸せなことだったのである。この一事が通身徹骨体得できぬ間はわが国の新生を語る資格はない。

○佛教では「恩讐の彼方に」と教え基督教では「汝の敵を愛せよ」という。嗚呼、如何なる民族が古来この真理を實踐したと言えるであらうか。

○今日われら同族の間に所謂復讐心の無いことはわれながら驚くほどである。われわれはこの原因を徹底的に究明しなければならぬ。それが分つた時初めて日本の新生を語りうるであらう。

○戦いに敗れて初めて知り得た真理…地上にこれほど貴重な収穫がまたとあるであらうか。○得る者は失い失う者は得る。ここに偉大なる

神の「平衡」がある。これを「ソルドの聖者は「報償」の理と唱えた。

○「恩讐の彼方に」という真理と「汝の敵を愛せよ」という真理と…この二つの大いなる真理が真に合一する時初めて地上に真の永遠の平和はもたらされるであらう。

○敗戦によつてわれらの学んだ真理の如何に豊富にして無限なことか。なぜもっと多くの人々がこの無限の真理を表現しないのであらう。

○私には今後尚相当の期間の教訓を噛みしめるだけで精一杯のようである。否うっかりするだけで私の一生はそれだけで終わるかも知れない。

○個人的回心にあつてさえその身證せる教訓は無限であつて終生尽きる期はない。況や民族的回心ともいふべきわれらの「新生」においておやである。

○私には終戦後ほど神の實在を確信したことは嘗てない。

○終戦直後から今日この時に至るまで私の上に生じた一切の出来事は一つとして私にとつて絶対必然的意義をもたぬものはない。「恩寵」というのはかかる体験的認識の宗教的表現なのであらう。（開頭「20号昭和23年3月」）

あとがきに替えて
今回の「微言」は再掲である。愚生にはこの原爆投下に関わる森信三先生の見解についてある種の違和感

を拭い切れないでいる。被爆者の一人としても大量破壊兵器の代表たる原爆の位置について再考の機会を自ら課したのである。読者諸氏もこの原爆投下の意義について森信三先生の言わんとなさる機微を再考再熟考する機会にして欲しい。▼政局はますますネジレの現象が強まる。加えて中国を始めとする近隣諸国等への外交政策について毅然として国益を念頭におきつつ果敢な処置を採り切れないでいる。いらだちは国民にこそつもの。自国の国土を守る気概に欠ける政府は即刻退陣していただかねばならぬ。（二纂）

〒633-0003

桜井市朝倉台東二丁目五三八一八九

TEL・FAX 0744-451-3422

臂 繁 一 一 発行

http://web1.kcn.jp/syushin/

Email: hiji@kcn.jp

第96回「かよう会」のご案内

日時 平成22年11月16日（火）

18時30分～（毎月第三火曜日原則）
場所 四ツ橋ビル地下1階『会議室』
「電話」（四ツ橋ビル 管理事務所）
06-6531-3686

交通 地下鉄：四つ橋線四ツ橋駅下車
2番出口へ。歩30秒
「長堀鶴見緑線」並びに「御堂筋線」
心斎橋駅及び「クリスタル長堀」との
連絡口で直結。

テキスト 森 信三著「修身教授録」（致知出版）
2300円（大きな書店で購入）
11/16人を植える道
12/21松陰先生の片鱗
1/18雑話

参加費 1000円